

## 事後評価結果（平成16年度）

担 当 課：日本道路公団有料道路計画課

担当課長名：角 田 直 行

<b>事業名</b>	<small>ちゅうぶじゅうかん</small> 中部縦貫自動車道	<b>事業区分</b>	一般国道	<b>事業主体</b>	日本道路公団 国土交通省中部地方整備局 国土交通省近畿地方整備局
<b>起終点</b>	自：岐阜県郡上市白鳥町那留  至：福井県大野郡和泉村東市布			延長	11.3 km

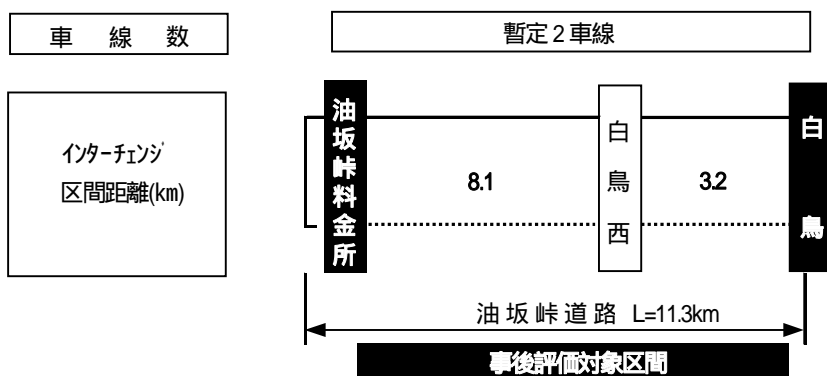
**事業概要**

長野県松本市を起点とし福井県福井市に至る総延長 160 km の高規格幹線道路である「中部縦貫自動車道」のうち、東海北陸自動車道として接続する「油坂峠道路」の白鳥 IC～油坂峠料金所を暫定 2 車線で整備を行った。

**事業の目的・必要性**

一般国道 158 号の福井・岐阜県境の油坂峠は難所であり積雪が 4m にも及ぶ豪雪地帯で交通の障害になって途絶されることが多かった。このため、冬季積雪時の通行止め等交通障害の解消、一般国道 158 号の災害時の迂回・代替道路機能、更に、定時性を確保することにより観光資源を生かした地域振興や産業経済の発展に寄与する。

**事業概略図**



<b>事業の 効果等</b>	<b>事業期間</b>	<b>事業化年度</b>	S56 年度	用地着手	S58 年度	供用年	(当初) H11	変動	1.00 倍
		都市計画決定	年度	工事着手	S58 年度	(暫定)	(実績) H11		
	<b>事業量</b>	計画時 (暫定)	(名目値) 749 億円 (実質値) 794 億円	実績 (暫定)		(名目値) 777 億円 (実質値) 778 億円	変動		1.04 倍
	<b>交通量 (当該路線)</b>	計画時	1,600/日		実績	1,000 台/日		変動	63%
	<b>旅行速度向上 (供用前現道 当該路線)</b>	17 70km/h (供用直前年次) S61 年度	(供用後年次) H11 年度		<b>交通事故減少 (供用前現道 供用後現道)</b>	216 件/億台扣 (供用後年次) H15 年度			
	<b>費用便益 分析結果 (事後)</b>	B/C 0.9	<b>総費用</b>	1,175 億円		<b>総便益</b>	1,112 億円		基準年 H16 年
		事業費： 1,116 維持管理費： 59			走行時間短縮便益： 1,017 走行経費減少便益： 51 交通事故減少便益： 44				
		<b>費用増加額</b>	— 億円		<b>便益減少額</b>	— 億円			
<b>事業遅延の理由</b>									

	<p>客観的評価指標に対応する事後評価項目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>拠点開発プロジェクト、地域連携プロジェクト、大規模プロジェクト支援に関する効果</li> <li>・スキージャム勝山 入場者数 26万人(H10) 39万人(H15) 1.5倍増加</li> <li>三次医療施設へのアクセス向上による効果</li> <li>・和泉村～中濃病院(関市) 所要時間 1時間30分 1時間10分 20分短縮</li> <li>緊急輸送道路通行止め時の代替路線の形成</li> <li>・緊急輸送道路である一般国道158号が、平成11年9月に発生した台風災害により通行止となったが、油坂峠道路が代替路線となった。 (通行止期間：平成11年9月15日～平成11年11月27日)</li> </ul> <p>他12項目について効果の発現が見られる。</p> <p>その他評価すべきと判断した項目</p>
事業による環境変化	<p>環境影響評価に対応する項目</p> <p>[大気質]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般環境大気測定局の測定データに平成15年度の年平均交通量の高速道路に起因する値を加えても環境保全目標を満足する。</li> <li>NO<sub>2</sub>：日平均値の年間98%値 0.032(0.04～0.06ppm以下)</li> <li>CO：日平均値の年間2%除外値 0.89(10ppm以下)</li> </ul> <p>[騒音]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境アセスメントで予測した断面について、実測した結果環境保全目標値を満足する。</li> <li>実測値：44dB (環境保全目標：65dB(夜間))</li> </ul> <p>その他評価すべきと判断した項目</p> <p>橋梁とトンネルを多く採用し、また仮設工事においても仮橋を多用し、自然への改変を極力少なくなるよう取り組んだ。</p>
事業を巡る社会経済情勢等の変化	<p>岐阜県・福井県の県内総生産は、平成9年度以降減少傾向にある。</p>
今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の取組みの実施状況も踏まえ、一定期間経過後改めて評価する必要がある。</li> <li>・本来、中部縦貫自動車道全体の整備により本道路の整備効果が発揮されるものであるが、社会資本ストックの有効活用の観点から、利用促進やコスト削減の取組みについて今後とも検討を行っていく必要がある。また、採算についても厳しい状況であることから、関係機関との協議を考慮したうえで、本来道路管理者への譲渡等一般有料道路事業の見直しについても検討を行う。</li> </ul>
計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性	<p>当該事業の効果分析に加え、更なる効果の発現に向けた検討も行うことが望ましい。</p>
特記事項	<p>無し</p>

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。